

銚子の気温などの変化について

2025年12月17日
銚子地方気象台



気象庁マスコットキャラクター
はれるん～千葉バージョン～

人間の産業経済活動の活発化に伴い、温室効果ガス（二酸化炭素やメタンなど）が多く排出されており、地球温暖化の進行とみられる気候変動により、世界や日本で異常気象が多く発生しています。そこで本日は銚子で近年の気温などがどのように変化しているのかといった現状を中心に説明します。

- 銚子の今年の夏の気温の観測状況
- 気候変動の理解
- 銚子における年平均気温などの経年変化
- 千葉県内の主な観測地点における月毎・年の平均気温と最高気温の上昇量
- 千葉県アメダス 1時間降水量50mm以上の年間発生回数
- 千葉県における年平均気温の将来予測

銚子の観測史上1~3位の値（6~9月の月平均気温高い方から）

要素／順位	1位	2位	3位	統計期間
6月の月平均気温の高い方から(°C) 年月	22.8 (2025/6)	22.0 (2024/6)	22.0 (1894/6)	1887年6月 2025年6月
7月の月平均気温の高い方から(°C) 年月	26.3 (2025/7)	26.3 (2024/7)	26.0 (2023/7)	1887年7月 2025年7月
8月の月平均気温の高い方から(°C) 年月	28.2 (2024/8)	28.0 (2023/8)	27.2 (2025/8)	1887年8月 2025年8月
9月の月平均気温の高い方から(°C) 年月	26.5 (2023/9)	26.1 (2025/9)	26.0 (2024/9)	1887年9月 2025年9月

銚子の2025年6~9月の毎月の平均気温と平年差および6~8月、7~9月の平均気温と平年差

要素／月	6月	7月	8月	9月	6~8月	7~9月
月平均気温（観測値）	22.8	26.3	27.2	26.1	25.4	26.5
月平均気温（平年値）	20.2	23.5	25.5	23.4	23.1	24.1
平年差	+2.6	+2.8	+1.7	+2.7	+2.3	+2.4

気候：十分に長い時間で「平均した大気の状態」

気候変動：自然変動や地球温暖化が原因となって、もたらされる気温や降水量の変化

異常気象：過去に経験した現象から大きく外れた現象のこと（普段の天候とはかけ離れた極端な気象のこと）。大雨や暴風等の激しい数時間の気象から、数か月も続く現象を含む。気象庁では、気温や降水量などの異常を判断する場合、原則として「30年に1回以下で発生する現象」と定義

気候変動の主要な要因

気候システム※内の
変動（自然の
揺らぎ）

内部変動

エルニーニョ・ラニーニャ
現象 など

外部からの強制

自然的要因

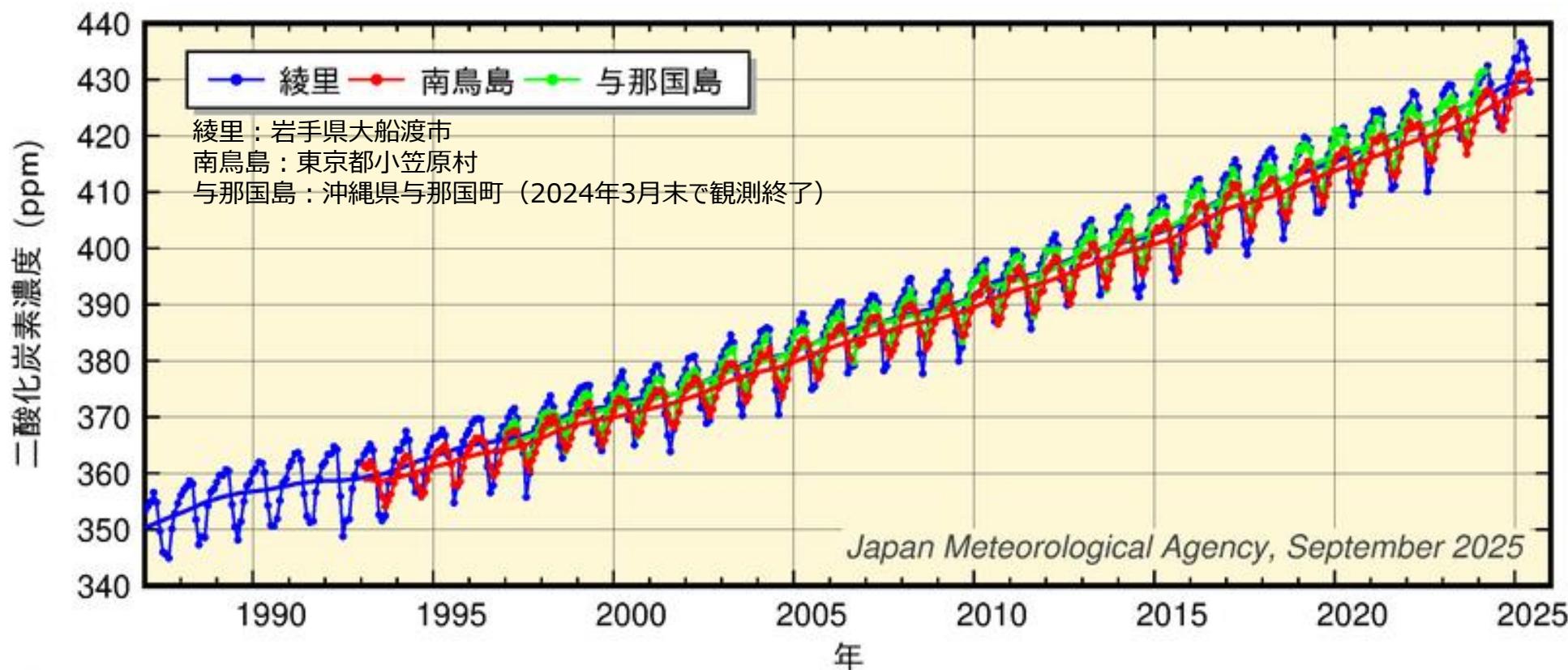
火山の噴火
太陽活動の変動 など

人為的要因

二酸化炭素濃度の変化
土地利用の変化 など

※気候システム：大気、海洋、地表面、雪や氷、海洋、生態系などの要素から構成され、それぞれの要素の間でエネルギー、水、物質をやりとりすることによって複雑に相互作用をする総合的な仕組み

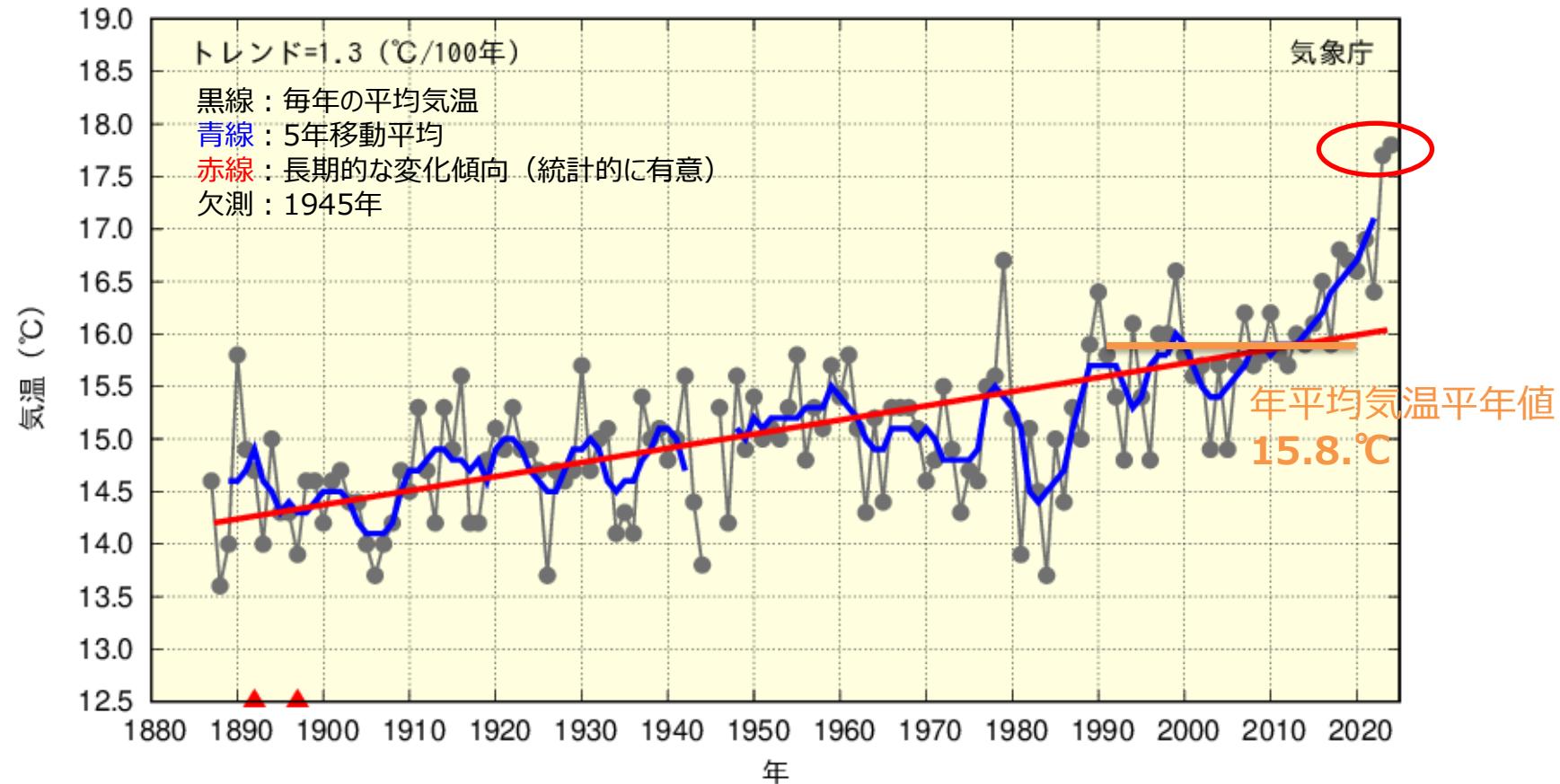
- 気象庁は、地球規模の実態とその長期的变化を明らかにするため、人間活動による局地的な汚染の影響が少ない場所において観測を実施しています。
- 人間活動に伴う化石燃料の消費、森林破壊といった土地利用の変化などにより、大気中の二酸化炭素濃度は増加しています。2024年の大気中二酸化炭素の世界平均濃度は、前年と比べて3.5ppm増えて423.9ppmとなっており、工業化以前（1750年）の平均的な値とされる約278ppmと比べて、52%増加しています。



※ppmは大気中の分子100万個中にある対象物質の個数を表す単位

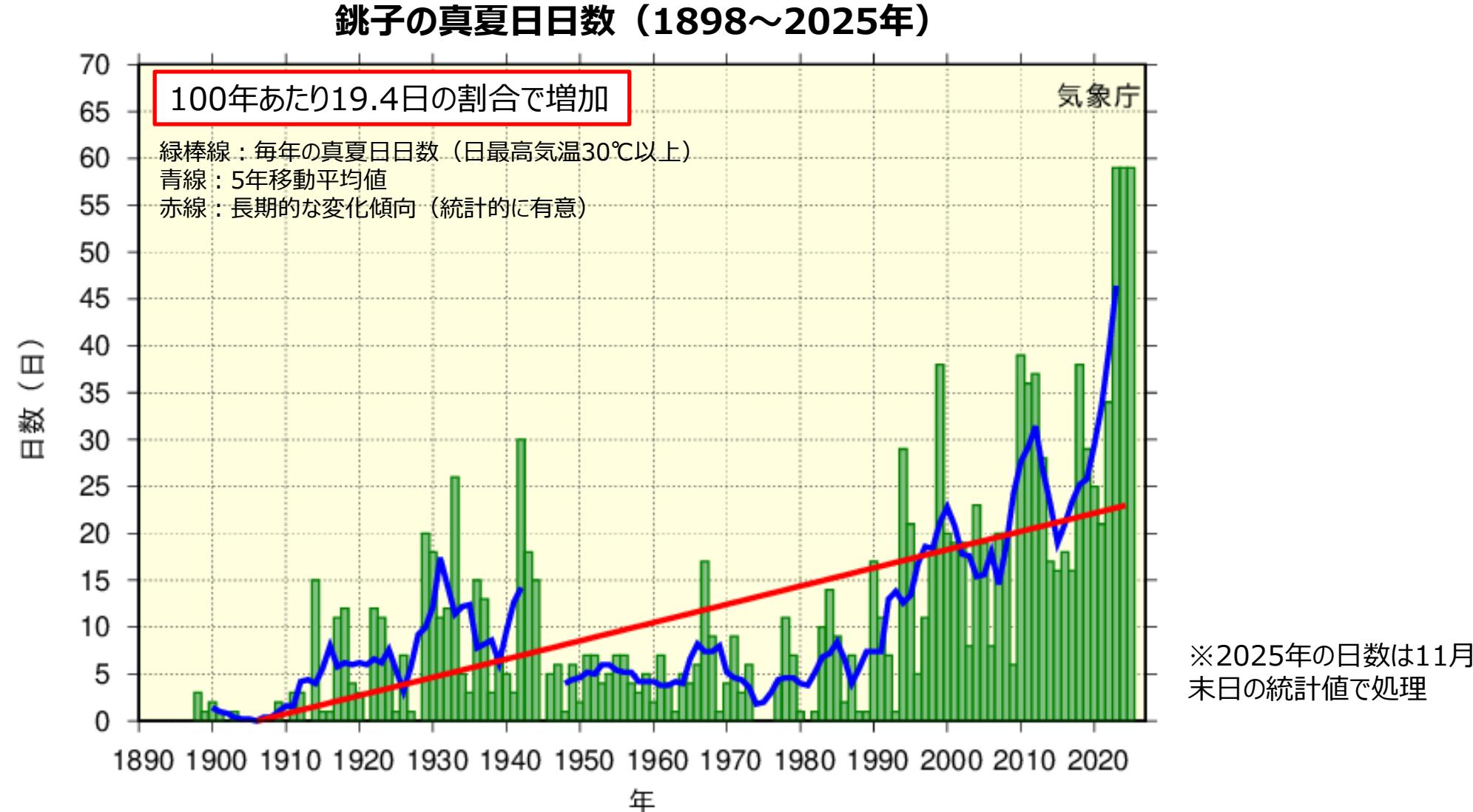
銚子の年平均気温は、様々な変動を繰り返しながら100年あたり1.3°Cの割合で上昇しています。

銚子の年平均気温の変化（1887～2024年）



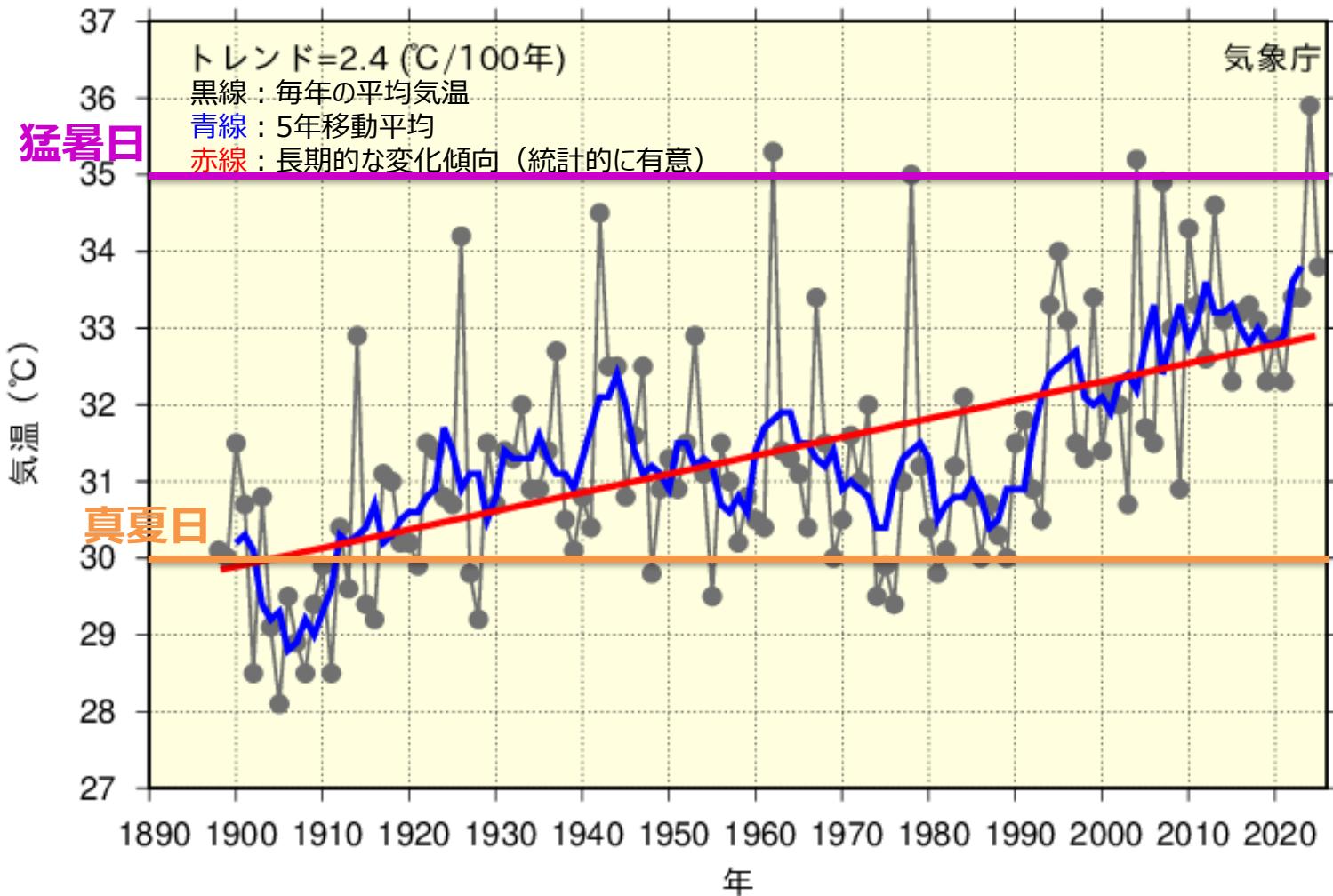
▲：銚子地方気象台は1892年8月、1897年8月に観測場所を移転。観測データは、移転による影響を除去するための補正を行っている。このため、公開している観測データとは値が異なる

銚子の真夏日日数の長期変化傾向は、100年あたり19.4日の割合で増加しています。



銚子の8月の最高気温の長期変化傾向は、100年あたり 2.4°C の割合で上昇しています。

銚子の8月の最高気温（1898～2025年）



銚子では日最高気温が 35°C （猛暑日）になった日は過去4回

月平均気温どの月が上昇している？

季節・月 ＼ 観測所名	冬			春			夏			秋			年間
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	
佐倉	1.1	1.3	2.2	3.4	2.1	2.3	2.3	3.8	2.9	2.5	1.8	1.9	2.3
成田	1.6	1.5	2.2	3.2	1.3	1.7	1.5	2.4	1.8	1.9	1.9	1.9	2.0
銚子	1.3	1.1	1.6	3.0	1.7	1.6	2.0	2.2	2.2	1.8	1.8	1.8	1.8
千葉	1.9	1.8	2.4	3.7	2.0	2.0	2.1	2.8	2.2	2.5	2.5	2.5	2.3
平均	1.5	1.4	2.1	3.3	1.8	1.9	2.0	2.8	2.3	2.2	2.0	2.0	2.1

夏から秋、最高気温などの月が上昇している？

季節・月 ＼ 観測所名	夏			秋		
	6月	7月	8月	9月	10月	11月
佐倉	3.3	3.7	4.7	2.4	3.6	1.6
成田	2.3	1.7	1.9	-	2.9	-
銚子	2.7	2.5	3.1	1.9	2.9	0.9
千葉	2.7	3.4	2.9	1.5	3.9	1.3
平均	2.8	2.8	3.2	1.9	3.3	1.3

単位 : ℃

上昇量 : 50年あたりで算出

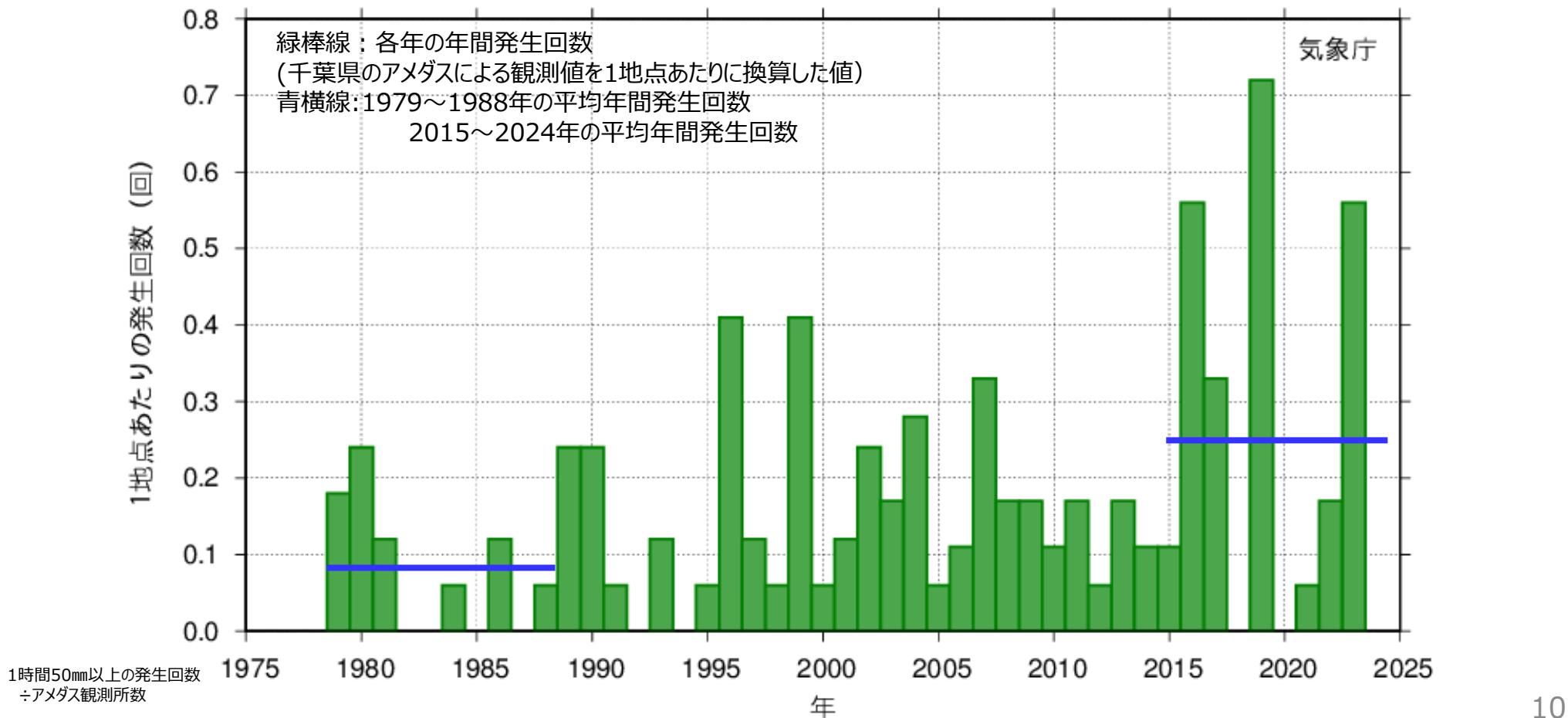
統計年 : 銚子、千葉は1969年～、成田は1973年～、
佐倉は1979年～

検定 : 各月・年のデータは検定を実施。一は変化傾向
は見られない。上昇量が記載されている月・年は、信頼
度水準90%以上で統計的に有意

銚子地方気象台の調査結果より

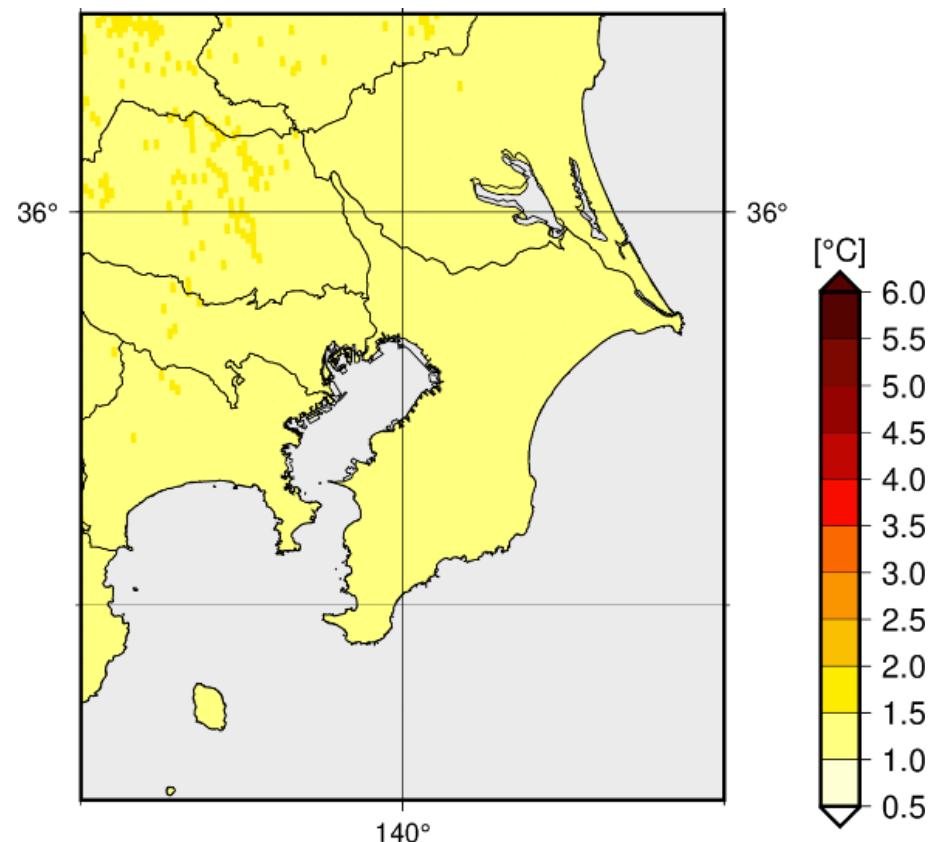
千葉県の1時間降水量50mm以上の年間発生回数は統計的に有意な変化傾向は確認できません。なお、最近10年間（2015～2024年）の平均年間発生回数（約0.25回）は、統計期間最初の10年間（1979～1988年）の平均年間発生回数（約0.08回）と比べて約3.1倍に増加しています。

千葉県[アメダス]1時間降水量50mm以上の年間発生回数の変化（1979～2024年）

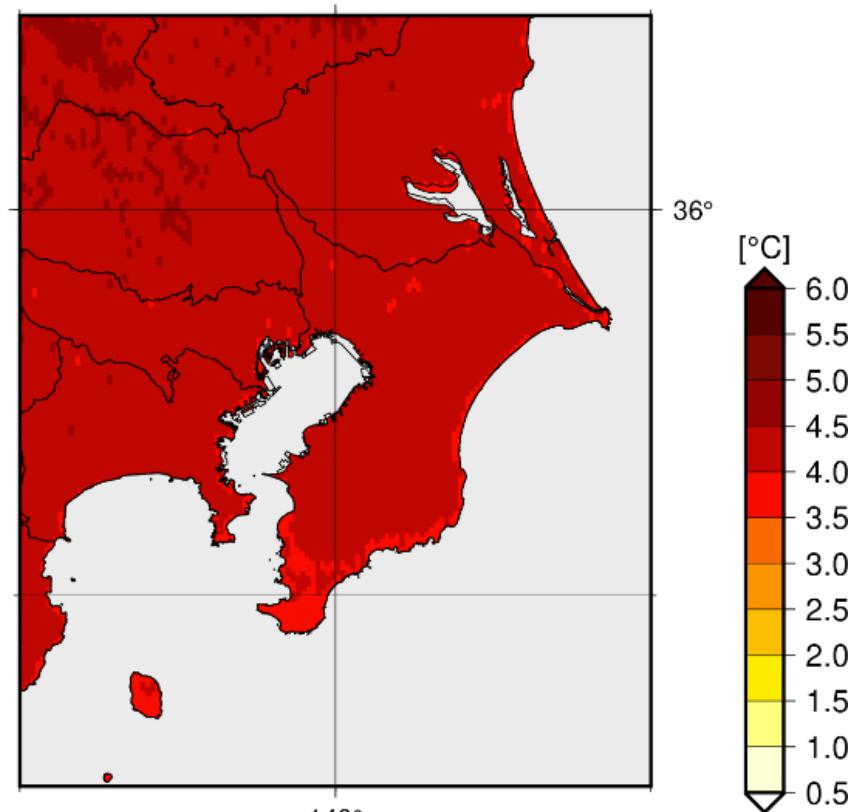


千葉県の年平均気温の予測（2076~2095年）において、「2°C上昇シナリオ」で約1.3°C、「4°C上昇シナリオ」で約4.1°C上昇する予測となっています（ともに千葉県平均。下図参照）。

現時点での銚子の年平均気温の平年値は、15.8°Cです。21世紀末に約4°C上昇するとした場合、現在の鹿児島県の屋久島・種子島の年平均気温（平年値19.6°C・19.8°C）に相当する気温になります。



※RCP2.6シナリオ「2°C上昇シナリオ」：
将来の世界平均気温が、工業化以前（1850~1900年）と比べて約2°C上昇することが想定されているシナリオ
パリ協定の2°C目標が達成された世界に相当



※RCP8.5シナリオ「4°C上昇シナリオ」：
将来の世界平均気温が、工業化以前（1850~1900年）と比べて約4°C上昇することが想定されているシナリオ
追加的な緩和策を取らなかった世界に相当

- ・銚子の年平均気温は様々な変動を繰り返しながら上昇
- ・銚子の真夏日日数は増加、8月の最高気温は上昇
- ・銚子でも夏は、より暑く、長くなっている
→熱中症に注意
- ・千葉県内の1時間50mm以上の降水量は有意な変化傾向は確認できないが、最近10年間（2015～2024年）の平均年間発生回数と、統計期間最初の10年間（1979～1988年）の平均年間発生回数を比べると約3.1倍増加
→短時間強雨の増加による低地の浸水や土砂災害への懸念
- ・今世紀末にかけて年平均気温は上昇する予測